

**(品目別需給編)**

# 1 小麦

## (1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2018/19年度

**生産量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・前月に比べ、ノルウェー等で下方修正され、下方修正された。

**消費量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・前月に比べ、東南アジア等で上方修正もEU等で下方修正され、下方修正された。

**輸出量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓

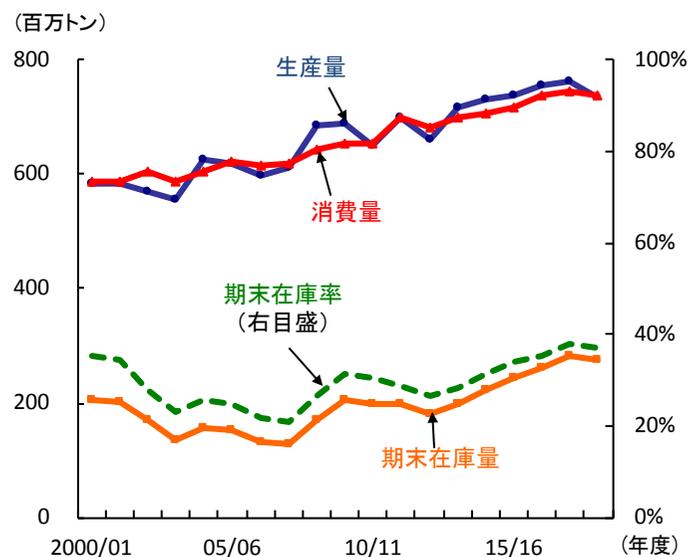
・前月に比べ、EU等で上方修正も米国等で下方修正され、下方修正された。

**期末在庫量** 前年度比 ↓ 前月比 ↑

(単位:百万トン)

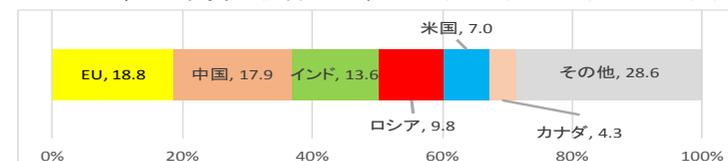
年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	756.4	763.2	732.9	▲ 0.1	▲ 4.0
消費量	739.1	743.6	739.2	▲ 2.9	▲ 0.6
うち飼料用	147.0	146.9	139.5	▲ 2.5	▲ 5.0
輸出量	183.4	181.2	178.5	▲ 0.5	▲ 1.5
輸入量	179.2	178.9	175.6	▲ 0.9	▲ 1.9
期末在庫量	262.3	281.9	275.6	5.1	▲ 2.2
期末在庫率	35.5%	37.9%	37.3%	0.8	▲ 0.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」(9 April 2019)

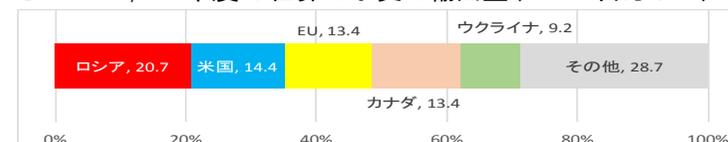


資料：USDA 「PS&D」(2019.4.9)をもとに農林水産省で作成。

### ○ 2018/19年度の世界の小麦の生産量(732.9百万トン)(単位:%)



### ○ 2018/19年度の世界の小麦の輸出量(178.5百万トン)



### ○ 2018/19年度の世界の小麦の輸入量(175.6百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2018/19年度の生産量は前月からの改訂はなく、51.3百万トンの見込み。

2019/20年度は、USDA「Crop Progress」(2019.4.29)によれば、4月28日時点の冬小麦の出穂進捗率(主要生産16州)は19%と、前年度同期(18%)を上回るものの5年平均(29%)を下回っている。また、作柄評価は、良～やや良が64ポイントと前年度同期の33ポイントを上回っている。また、春小麦の作付進捗率(主要生産6州)は13%と、前年度同期(9%)を上回るものの、3月以降の大雪や洪水の影響で5年平均(33%)を下回っている。

なお、3月末の意向面積調査によれば、小麦全体の作付面積は前年度より4.3%減少の18.5百万ヘクタール。内訳は、冬小麦が1909年以来2番目に小さい12.7百万ヘクタール(対前年度比3.2%減)、春小麦(デュラム小麦を含む)が5.8百万ヘクタール(対前年度比6.6%減)となっている。

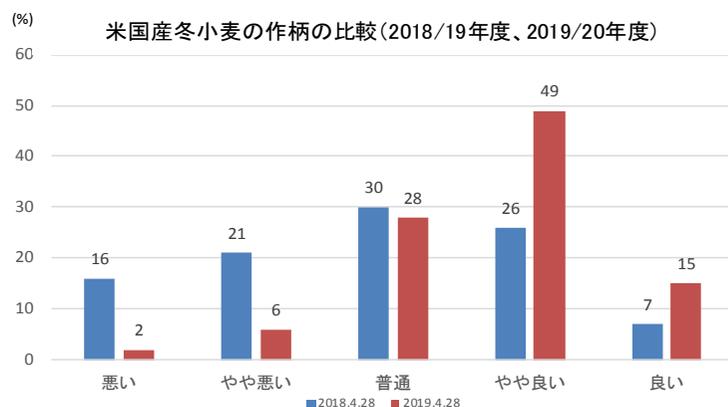
【貿易情報・その他】2018/19年度の輸出量は、前月より0.5百万トン下方修正され25.7百万トンの見込み。品種別には、ハードレッドウインターは価格競争力があるため上方修正されたものの、ハードレッドスプリング、デュラム小麦等は下方修正された。

小麦－米国 (冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

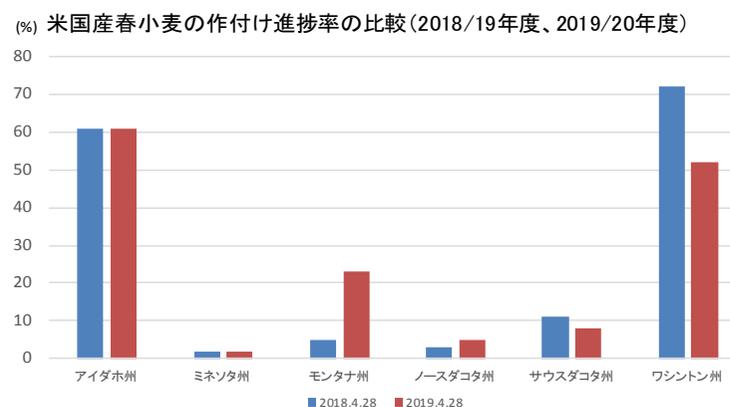
(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	62.8	47.4	51.3	-	8.3
消費量	31.9	29.4	29.8	▲ 0.3	1.6
うち飼料用	4.4	1.4	1.9	▲ 0.3	37.4
輸 出 量	28.6	24.5	25.7	▲ 0.5	4.9
輸 入 量	3.2	4.3	4.0	-	▲ 7.7
期末在庫量	32.1	29.9	29.6	0.9	▲ 1.1
期末在庫率	53.1%	55.5%	53.2%	2.3	▲ 2.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	17.75	15.20	16.03	-	5.5
単収(t/ha)	3.54	3.12	3.20	-	2.6

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」(9 April 2019)



資料: USDA 「Crop Progress」(2019.4.29)をもとに農林水産省で作成。



< ロシア >

【生育・生産状況】2018/19年度の生産量は、USDAによれば、前月からの改訂はなく71.7百万トン。内訳は、冬小麦が52.5百万トン、春小麦が19.2百万トン。

2019/20年度の冬小麦は、ロシア気象センターによると主要産地の南連邦管区西部、北カフカス連邦管区北部では1月末、ウラル連邦管区南部では3月末に休眠期が終わり、生長が再開された。4月上旬現在、生育は概ね順調である。また、ロシア農業省によると、4月12日時点の春小麦の作付面積は、0.2百万ヘクタールで作付進捗率は1.3パーセントである。

生産量は、ロシア農業省によれば、前年度より4%増加し75~78百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】ロシア農業省によれば、2018/19年度の小麦輸出量は4月現在33.1百万トンであり、目標輸出数量37.0百万トンは達成されない可能性がある。同年度の輸出量は、2018年7月から前年度の豊作を背景とした国際的な価格競争力により、前年度を上回る輸出ペースで推移したが、その後、ユーロ安によるEUの輸出攻勢やロシア国内の在庫量の減少による国内価格の高騰から輸出競争力が低下。2019年1月以降、輸出ペースが落ち3月には輸出量は前年度を下回った。しかしながら、依然として輸出水準は高い。

< EU >

【生育・生産状況】2018/19年度の前年度は、USDAによれば、前月からの改訂はなく137.6百万トンの見込み。

2019/20年度は、イタリアやスペインでは早春に乾燥天候となったが、4月の降雨で冬小麦の単収予測がかなり改善された。また、英国、フランスでも降雨があり小麦にとって恵みの雨となった。ヨーロッパ北部では最近の乾燥天候で土壌水分が減少しているが、今後降雨があれば、単収が改善する可能性がある。EU委員会によると、2019/20年度の小麦の生産量は干ばつの被害を受けた前年度より9.1%増加し、149.8百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】飼料用小麦需要量は、相対的に価格が安いとうもろこしに需要がシフトしたことから、前月から1.5百万トン下方修正された。また、輸出量は、EU域内の飼料用小麦の需要減少や3月からの世界的なユーロ安から、前月より1.0百万トン上方修正された。

小麦—ロシア（主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培）

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	72.5	85.2	71.7 (71.7)	-	▲ 15.8
消費量	40.0	43.0	40.5 (42.4)	-	▲ 5.8
うち飼料用	17.0	20.0	18.0 (18.4)	-	▲ 10.0
輸 出 量	27.8	41.4	37.0 (35.2)	-	▲ 10.7
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.3)	-	6.4
期末在庫量	10.8	12.0	6.7 (10.1)	0.2	▲ 44.1
期末在庫率	16.0%	14.3%	8.7% (13.0%)	0.2	▲ 5.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	27.00	27.37	26.34 (27.30)	-	▲ 3.8
単収(t/ha)	2.69	3.11	2.72 (2.91)	-	▲ 12.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 April 2019)  
IGC 「Grain Market Report」(28 April 2019)

小麦—EU（冬小麦を主に栽培）

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、( )はEU	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	145.4	151.3	137.6 (137.3)	-	▲ 9.0
消費量	128.0	130.4	123.0 (127.8)	▲ 1.5	▲ 5.7
うち飼料用	56.0	58.0	51.0 (54.3)	▲ 1.5	▲ 12.1
輸 出 量	27.4	23.3	24.0 (22.0)	1.0	3.0
輸 入 量	5.3	5.8	6.0 (5.4)	▲ 0.2	3.1
期末在庫量	10.7	14.1	10.7 (13.0)	0.3	▲ 24.1
期末在庫率	6.9%	9.2%	7.3% (8.7%)	0.2	▲ 1.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	27.23	26.08	25.55 (25.54)	-	▲ 2.0
単収(t/ha)	5.34	5.80	5.39 (5.4)	-	▲ 7.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
USDA 「PS&D」(9 April 2019)  
EU 「Balance Sheets For Cereals and Oilseeds and Rice」(25 April 2019)

< カナダ >

【生育・生産状況】2018/19年度の生産量は、カナダ農務農産食品省(AAFC)の4月報告によると、前月からの改訂はなく、31.8百万トンの見込み。内訳は、デュラム小麦を除く普通小麦が26.0百万トン、デュラム小麦が5.8百万トン。

2019/20年度の作付面積は、前年度より1.6%増加の10.2百万ヘクタール。内訳は、デュラム小麦を除く普通小麦は、冬小麦の作付けが前年度より減少するものの、デュラム小麦、なたねから普通小麦の春小麦に作付けがシフトすることから、前年度より増加し8.2百万ヘクタール、デュラム小麦は豊富な期首在庫と低迷する価格から前年度より減少し2.0百万ヘクタール。

生産量は、それぞれ28.0百万トン(対前年度比7.6%増)、5.1百万トン(同11.0%減)の計33.1百万トンと前年度より4.2%増加する見込み。

【貿易情報・その他】2018/19年度の輸出量は前月からの改訂はなく、対前年度1.3%増加の22.8百万トン。

< 中国 >

【生育・生産状況】2018/19年度の前月からの改訂がなく、冬小麦が124.5百万トン、春小麦が6.9百万トンの131.4百万トンの見込み。2019/20年度の冬小麦は、中国中央気象台によると、河北省、河南省等では、気温も平年より高く土壌水分も十分あり、節間伸長期から出穂期に入っている。四川省、重慶市等でも気温が平年同時期より高めで、降水量も平年同期並みとなっており、多くは開花期に入っている。春小麦は、黒竜江省で播種期、内モンゴル東南部、寧夏省等で播種期から出穂期に入っている。

なお、全土の作付進捗率は41.2%と前年度同期並みである。

作柄は、同気象台の作柄観測によると、中国全土の冬小麦の一、二類苗(※)の比率はそれぞれ23%、74%であり、前月同時期より一類苗の比率が2ポイント上方修正、二類苗が3ポイント下方修正された。

小麦－カナダ (春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、( )はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.1	30.0	31.8 (31.8)	-	6.1
消費量	10.8	9.4	9.3 (9.0)	-	▲ 1.3
うち飼料用	5.8	4.5	4.3 (4.1)	-	▲ 4.9
輸 出 量	20.2	22.0	24.0 (22.8)	-	9.3
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.1)	-	-
期末在庫量	6.9	5.9	4.9 (6.0)	-	▲ 17.7
期末在庫率	22.2%	18.9%	14.6% (18.9%)	-	▲ 4.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.98	8.98	9.90 (9.88)	-	10.2
単収(t/ha)	3.58	3.34	3.21 (3.22)	-	▲ 3.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 April 2019)  
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(16 April 2019)

デュラム小麦を除く普通小麦 : 冬小麦、春小麦

小麦－中国 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	133.3	134.3	131.4 (131.4)	-	▲ 2.2
消費量	119.0	121.0	125.0 (127.8)	-	3.3
うち飼料用	17.0	17.5	20.0 (20.0)	-	14.3
輸 出 量	0.8	1.0	1.2 (1.2)	-	20.0
輸 入 量	4.4	4.0	3.5 (3.6)	-	▲ 12.5
期末在庫量	114.9	131.3	140.0 (121.5)	-	6.7
期末在庫率	96.0%	107.6%	110.9% (94.2%)	-	3.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.69	24.51	24.27 (24.00)	-	▲ 1.0
単収(t/ha)	5.40	5.48	5.42 (5.42)	-	▲ 1.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 April 2019)  
IGC 「Grain Market Report」(28 April 2019)

※一類苗: 生育が正常な苗、二類苗: 通常の苗よりやや小さい苗  
三類苗: 病気の苗、弱い苗。

<豪州>

【生育・生産状況】2018/19年度の生産量は、USDAによると、前月からの改訂はなく、2007/08年度以来最低の17.3百万トンの見込み。

2019/20年度の見込みは、3月の豪州農業資源経済科学局(ABARES)によると、作付面積の増加と単収の上昇により、干ばつの被害が大きかった前年度より38.2%増加の23.9百万トンの見込み。USDAによれば、4月の第3週に降雨が豪州東部の大部分であったものの、主要産地では殆ど降雨に恵まれなかった。そのため、多くの農家は作付けに必要な降雨を待っている。また、気温は東部では平年より高く、南部と西部では平年に近い状況。

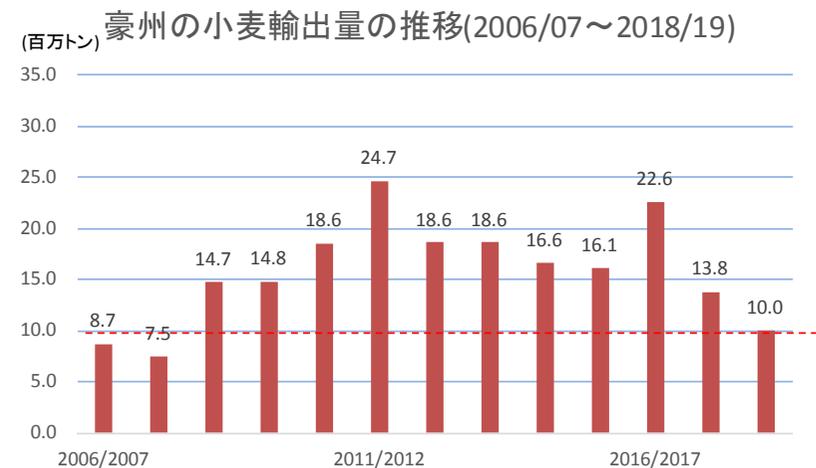
【貿易情報・その他】2018/19年度の輸出量は前月からの改訂はなく、10.0百万トンと2007/08年度以来最低となる見込み。結果として、小麦の輸入量が増加している東南アジアのうち、世界第2位の小麦輸入国であるインドネシアでは、豪州から、輸入先をロシア、ウクライナ等の黒海諸国へ転換している。

小麦—豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	31.8	21.3	17.3 (17.3)	-	▲ 18.8
消費量	7.5	7.5	9.2 (9.0)	-	▲ 23.0
うち飼料用	4.0	4.0	5.7 (5.6)	-	▲ 42.5
輸 出 量	22.6	13.9	10.0 (9.8)	-	▲ 27.8
輸 入 量	0.2	0.2	0.2 (0.2)	-	▲ 6.3
期末在庫量	5.7	5.9	4.1 (4.3)	-	▲ 29.8
期末在庫率	19.0%	27.5%	21.5% (22.9%)	-	▲ 6.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)※	12.19	12.25	10.20 (12.10)	-	▲ 16.7
単収(t/ha)	2.61	1.74	1.70 (1.89)	-	▲ 2.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 April 2019)  
IGC 「Grain Market Report」(28 April 2019)



資料：USDA 「PS&D」(2019.4.9)をもとに農林水産省で作成。

## 2 とうもろこし

(1) 国際的な需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2018/19 年度

**生産量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

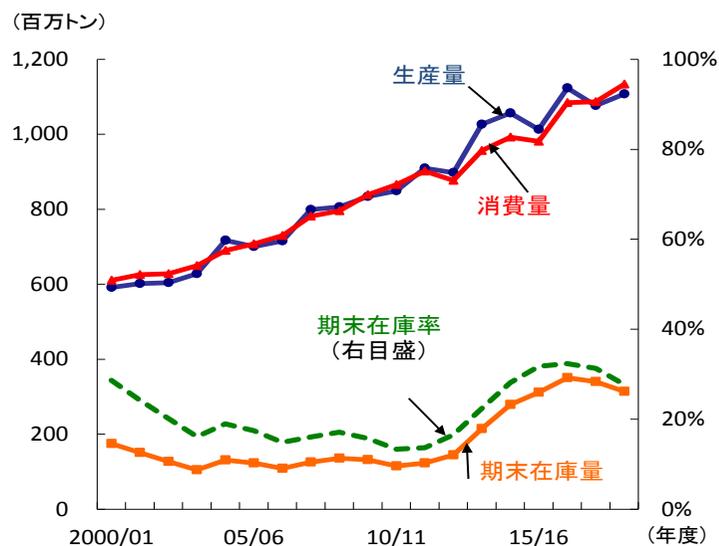
前月に比べ EU、ブラジル等の単収が上方修正されたため、上方修正された。

**消費量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓

**輸出量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

前月に比べ、ブラジルの輸出量の上方修正等により上方修正された。

**期末在庫量** 前年度比 ↓ 前月比 ↑



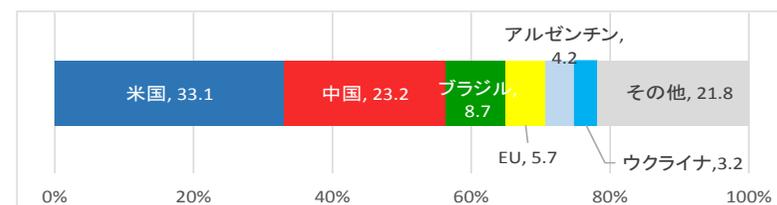
資料 : USDA 「WASDE」 (2019. 4. 9) をもとに農林水産省にて作成

(単位:百万トン)

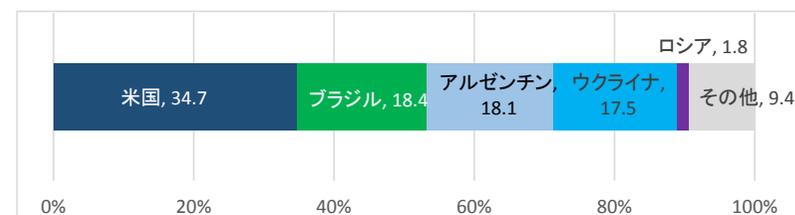
年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	1,123.4	1,076.4	1,107.4	6.2	2.9
消費量	1,084.1	1,086.7	1,133.8	▲ 0.0	4.3
うち飼料用	656.1	671.7	703.5	0.6	4.7
輸 出 量	160.1	147.1	168.2	1.2	14.3
輸 入 量	135.6	150.0	162.0	1.1	8.0
期末在庫量	350.8	340.4	314.0	5.5	▲ 7.8
期末在庫率	32.4%	31.3%	27.7%	0.5	▲ 3.6

資料 : USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (9 April 2019)

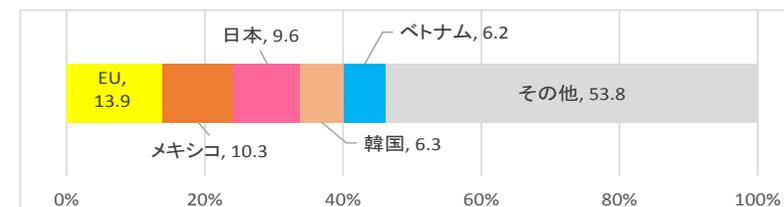
○ 2018/19 年度 世界のとうもろこしの生産量 (1,107.4 百万トン) (単位 : %)



○ 2018/19 年度 世界のとうもろこしの輸出量 (168.2 百万トン)



○ 2018/19 年度 世界のとうもろこしの輸入量 (162.0 百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

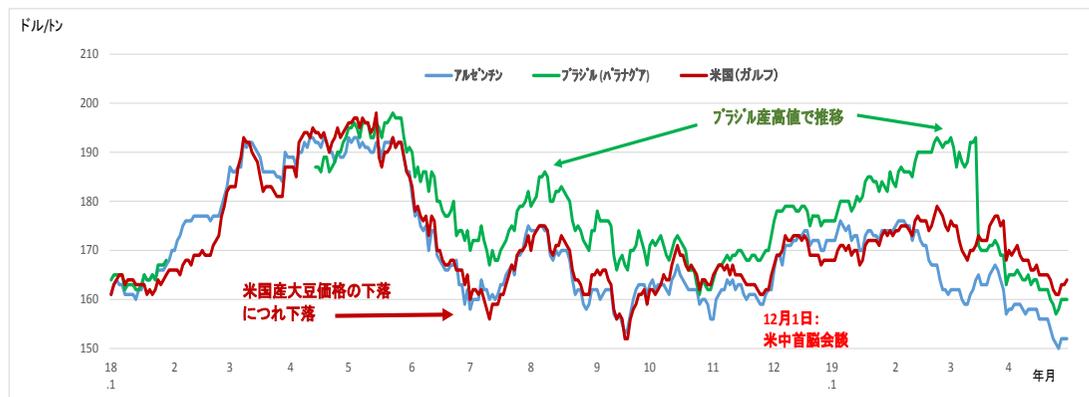
【生育・生産状況】3月末に米国農務省(USDA)から公表された作付意向面積調査によれば2019/20年度の作付面積は、37.6百万ヘクタールと昨年より1.5百万ヘクタール増加した。これが実現すれば2016/17年度以来の高水準。但し、本調査は3月1~2週が調査対象期間であり、3月中旬からの中西部の洪水について反映されていない。

3月の洪水や4月下旬の降雨により、4月28日時点で作付け進捗率は15%と過去5年平均(27%)と比べ作付けが遅れているが、前年同である。一部で、生育期間の短い大豆への切り替えが予想されるが、現時点では生産量への大きな影響はないとみられている。

【需要動向】USDAによれば、2018年12月~2019年2月の飼料向け需要の減少や、3月のエタノール生産ペースの低下等により、バイオエタノール加工用需要で下方修正され、全体の消費量も下方修正された。

【貿易情報・その他】USDAによれば、ブラジルやアルゼンチン、ウクライナとの輸出競争から輸出量が下方修正された。USDAの輸出検証高によると、3月単月(489万トン)では、我が国向けが一番多く(119万トン)、続いて僅差でメキシコ(117万トン)、コロンビア、韓国、台湾向けとなっている。

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格(FOB)の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

とうもろこしー米国

(単位:百万トン)

年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	384.8	371.1	366.3	-	▲ 1.3
消費量	313.8	314.0	311.6	▲ 3.2	▲ 0.8
うち飼料用	138.9	134.7	134.6	▲ 1.9	▲ 0.1
エタノール用等	138.0	142.4	139.7	▲ 1.3	▲ 1.9
輸出货量	58.3	61.9	58.4	▲ 1.9	▲ 5.7
輸入量	1.5	0.9	1.0	-	10.9
期末在庫量	58.3	54.4	51.7	5.1	▲ 4.9
期末在庫率	15.7%	14.5%	14.0%	1.5	▲ 0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	35.11	33.48	33.08	-	▲ 1.2
単収(t/ha)	10.96	11.08	11.07	-	▲ 0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 April 2019)

とうもろこしーアルゼンチン

(単位:百万トン)

年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	41.0	32.0	47.0 (55.0)	1.0	46.9
消費量	11.2	12.4	13.8 (22.9)	-	11.3
うち飼料用	7.5	8.5	9.7 (17.5)	-	14.1
輸出货量	26.0	21.0	30.5 (30.5)	0.5	45.2
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	5.3	3.9	6.6 (10.3)	▲ 0.2	69.6
期末在庫率	14.2%	11.6%	14.9% (19.3%)	▲ 0.6%	3.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.90	5.20	5.70 (6.88)	0.20	9.6
単収(t/ha)	8.37	6.15	8.25 (7.20)	▲ 0.11	34.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 April 2019)  
IGC「Grain Market Report」(25 April 2019)

< ブラジル >

【生育・生産状況】ブラジル食料供給公社(Conab) 4月報告によると、夏とうもろこしの収穫は、リオグランデ・ド・スル州で69%、パラナ州で77%終了した。また、冬とうもろこしの作付けは、マトグロッソ州、マトグロッソ・ド・スル州で終了した。

Conab 4月報告によると、2018/19年度のとうもろこし(夏冬の合計)の作付面積は17.3百万ヘクタール(前年度比3.8%増)、生産量は94.0百万トン(前年度比16.5%増)の見込みで、うち、夏とうもろこしは25.9百万トン(前年度比3.5%減)、冬とうもろこしは68.1百万トン(前年度比26.4%増)である。先月に引き続き、冬とうもろこしについてはマトグロッソ州、マトグロッソ・ド・スル州等で生産量が上方修正された。この結果、とうもろこし全体の生産量が上方修正された。

【貿易情報・その他】ブラジルの貿易統計によると、3月の輸出量は89万トンである。1~3月累計672万トンは、前年同期(488万トン)を大きく上回っている。これは、今期、前年度に比べて作付け、収穫の時期が早かったことに加え、生産量が増加したことによるものである。主な輸出先は、ベトナム、イラン、台湾である。

< 中国 >

【生育・生産状況】中国中央气象台によれば、2019/20年度については、4月に入り、四川省東部等で作付けが開始された、主産地の黒竜江省などの東北地区では4月後半から作付けが行われるとみられる。

【需給状況】中国農業農村部の「2019年3月中国農産品需給形勢分析」によると、3月のとうもろこし産地の卸売平均価格は東北地区で1,700元/トン、華北地区で1,900元/トンとそれぞれ前月比2.0%、3.0%下落している。農家在庫は減少しているものの、加工需要が軟調で、アフリカ豚コレラの影響による飼料用需要の低下から大幅な価格上昇は見込まれない。

【貿易情報・その他】中国の貿易統計によると、1~3月の輸入量は98.2万トン(前年同期比76%増)であり、うち9割以上がウクライナ産である。

とうもろこし—ブラジル

(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが7割を占め、夏とうもろこしは3割)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	95.5	82.0	96.0 (95.5)	1.5	17.1
消費量	60.5	64.5	66.5 (65.2)	-	3.1
うち飼料用	51.0	55.0	56.0 (52.0)	-	1.8
輸 出 量	31.6	25.1	31.0 (29.5)	2.0	23.4
輸 入 量	0.9	0.9	1.0 (0.5)	-	8.7
期末在庫量	14.0	7.3	6.8 (7.4)	▲ 0.3	▲ 6.8
期末在庫率	15.2%	8.2%	7.0% (7.8%)	▲ 0.0	▲ 1.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	17.60	16.60	17.20 (17.30)	-	3.6
単収(t/ha)	5.60	4.94	5.58 (5.52)	0.09	13.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 April 2019)  
IGC 「Grain Market Report」(25 April 2019)

とうもろこし—中国

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	263.6	259.1	257.3 (257.3)	-	▲ 0.7
消費量	255.0	263.0	280.0 (286.6)	-	6.5
うち飼料用	185.0	187.0	198.0 (184.0)	-	5.9
輸 出 量	0.1	0.0	0.1 (0.1)	-	150.0
輸 入 量	2.5	3.5	5.0 (4.5)	-	44.5
期末在庫量	223.0	222.5	204.8 (195.9)	-	▲ 8.0
期末在庫率	87.4%	84.6%	73.1% (68.3%)	-	▲ 11.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	44.18	42.40	42.13 (42.13)	-	▲ 0.6
単収(t/ha)	5.97	6.11	6.11 (6.11)	-	-

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 April 2019)  
IGC 「Grain Market Report」(25 April 2019)

### 3 米

(1) 国際的な米需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2018/19 年度

**生産量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・前月に比べ、インドネシアの収穫面積の下方修正等により下方修正された。

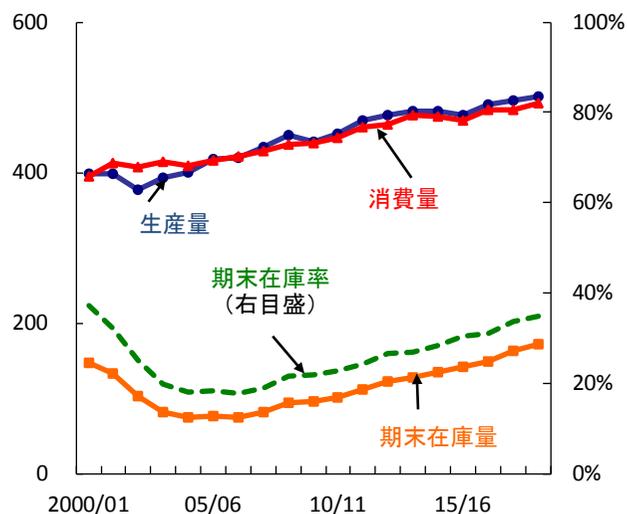
**消費量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・前月に比べ、パキスタン、スリランカの消費量の上方修正により上方修正された。

**輸出量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓

**期末在庫量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓

(百万トン)



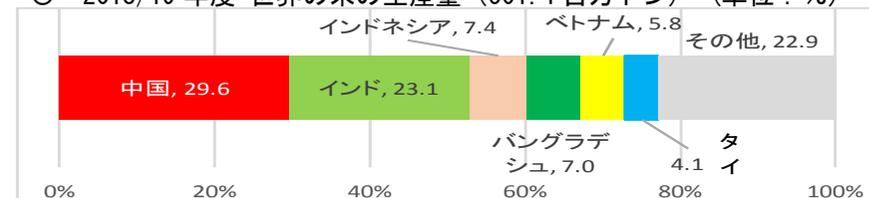
資料：USDA「PS&D」(2019.4.9)をもとに農林水産省にて作成

(単位:百万精米トン)

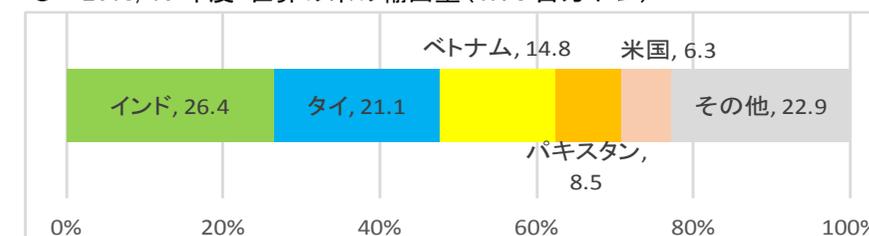
年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	491.0	495.5	501.4	▲ 0.2	1.2
消費量	483.7	483.0	492.4	0.4	1.9
輸出量	47.3	47.1	47.3	▲ 0.1	0.3
輸入量	41.1	46.9	44.3	▲ 0.3	▲ 5.5
期末在庫量	149.9	162.4	171.4	▲ 0.8	5.5
期末在庫率	31.0%	33.6%	34.8%	▲ 0.2	1.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 April 2019)

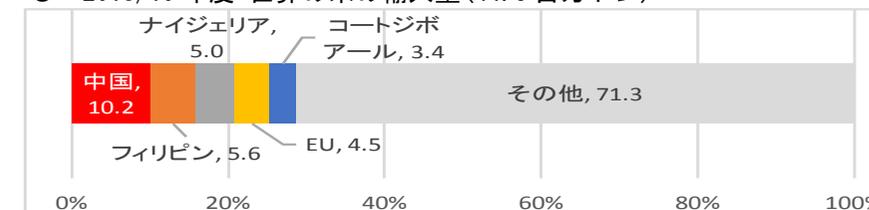
○ 2018/19 年度 世界の米の生産量 (501.4 百万トン) (単位: %)



○ 2018/19 年度 世界の米の輸出量 (47.3 百万トン)



○ 2018/19 年度 世界の米の輸入量 (44.3 百万トン)



(2) 国別の米の需給動向

< 米国 >

【生産動向】

米国農務省 (USDA) の「Crop Progress」(2019.4.29)によれば、2019/20年度は生産州全体の38%で作付けが終了。同時期の過去5か年平均に比べ、19%遅れている。3月末の作付意向面積調査によれば、2019/20年産の作付面積は1.16百万ヘクタールで前年度より2.6%減少見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量で中・短粒種(2等4%砕米混入、ガルフ積み)は、3月より10ドル/トン下落し、515ドル/トン。カリフォルニア産中粒種(1等4%砕米混入、精米工場渡し)は3月より15ドル/トン下落し、885ドル/トン。これは、中国の中・短粒種の中東・北アフリカ向け輸出が増加したことにより、輸出市場を奪われたことによる。(P.12(参考)を参照)

< インド >

【生育・生産動向】

USDAによれば、降雨に恵まれ米生産の85%を占める雨季米の生産量が増加したことから、全体の生産量は史上最高の116.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】3月27日付けの報道によれば、2018年4月～2019年3月のバスマティ米の輸出額は約3,000億ルピー(約40億米ドル)となり、2014年度を抜き史上最高額を達成する見込みである。経済基盤の安定、イランからの強い需要、3年連続のコメ販売価格の上昇が要因。

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ川沿いで栽培  
カリフォルニア州の全米の米生産に占める生産シェアは約2割

インドでは、雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

米—米国

(単位:百万精米トン)

年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.1	5.7	7.1	-	25.8
消費量	4.2	4.3	4.3	-	0.2
輸出量	3.7	2.8	3.0	▲ 0.12	8.3
輸入量	0.8	0.9	0.9	-	8.2
期末在庫量	1.5	0.9	1.7	0.1	82.8
期末在庫率	18.5%	13.2%	23.4%	2.0	10.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	1.25	0.96	1.18	-	22.9
単収(もみt/ha)	8.11	8.41	8.62	-	2.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 April 2019)

米—インド

(単位:百万精米トン)

年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	109.7	112.9	116.0 (115.6)	-	2.7
消費量	95.8	98.8	101.1 (101.0)	-	2.3
輸出量	11.7	12.0	12.5 (12.1)	-	3.8
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	20.6	22.6	25.0 (25.2)	-	10.6
期末在庫率	19.1%	20.4%	22.0% (22.3%)	-	1.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	43.99	43.79	44.50 (43.40)	-	1.6
単収(もみt/ha)	3.74	3.87	3.91 (2.66)	-	1.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 April 2019)

IGC 「Grain Market Report (25 April 2019)」 (単収は精米t/ha)

<ベトナム> **北部で二期作、南部で二期作、三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培**

【生育・生産動向】4月第1週の週報ではメコンデルタの冬春作は82.4%に当たる1.4百万ヘクタールで収穫が終わっている。良好な天候に恵まれ、単収も7トン/ヘクタールを超え、品質も良好となっている。北部の冬春作は開花～出穂期となっている。

【貿易情報・その他】4月の国内価格については、主要生産地において全体的に価格が低下しており、対前年同月比で10～15%低下している。

一方、2019年3月の輸出価格は、インディカ精米は2月(335ドル/トン)から上昇し、347ドル/トン。2019年1～3月の輸出数量は1.4百万トンと対前年同期(1.5百万トン)比で5.6%減となっているが、インディカ精米価格の下落により輸出金額では前年同期比18.2%減となり、輸出業者や国内の米農家に大きな影響を与えている。

<タイ> **夏の雨季作と冬の乾季作で行われる。主にインディカを栽培**

【生育・生産動向】乾季作の収穫は2019年2月から10月まで続くが、3月から4月が最盛期となっている。乾季作の収穫面積は、特に東北部の灌漑施設の利用が困難な地域で米からとうもろこし生産に転換する農家が多かったことから、対前年度比で3.4%減少した。タイ農業協同組合省の3月報告によれば、雨季作は25.8百万トン(粳ベース)、乾季作も、生産量は7.8百万トン、全体で33.6百万トンの見通し。

【貿易情報・その他】2019年1～2月のタイ産米の輸出量は、前年同期(192.0万トン)と比較して、163.9万トンで14.6%減少した。主な輸出先は、ベナン(22.7万トン)、フィリピン(21.3万トン)である。

4月13日時点のタイ産米(100%2等)の輸出価格は432ドル/トンで、ベトナム産より1割～2割程度割高のため、インドネシア等の大口輸入国からの輸入がそれほど伸びなかった。しかし、輸出減少は一時的な傾向にとどまり、通年ではほぼ例年通りの生産量に回復することが予想されている。

**米ーベトナム**

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.4	28.5	29.1 (28.6)	-	2.1
消費量	22.0	22.1	22.2 (22.6)	-	0.5
輸 出 量	6.5	6.6	7.0 (6.6)	-	6.2
輸 入 量	0.5	0.5	0.4 (0.4)	-	▲ 20.0
期末在庫量	1.0	1.3	1.5 (3.7)	-	21.6
期末在庫率	3.4%	4.4%	5.2% (12.7%)	-	0.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	7.71	7.69	7.76 (7.57)	-	0.9
単収(もみt/ha)	5.68	5.92	5.99 (3.78)	-	1.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 April 2019)

IGC 「Grain Market Report (25 April 2019)」 (単収は精米t/ha)

**米ータイ**

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	19.2	20.4	20.7 (20.2)	-	1.6
消費量	12.0	10.6	10.5 (10.4)	-	▲ 0.9
輸 出 量	11.6	11.1	10.0 (10.0)	-	▲ 9.6
輸 入 量	0.3	0.3	0.3 (0.3)	-	-
期末在庫量	4.2	3.2	3.7 (3.2)	-	14.1
期末在庫率	18.0%	14.8%	17.8% (15.7%)	-	3.0

(参考)

収穫面積(百万ha)	10.25	10.68	10.96 (10.40)	-	2.6
単収(もみt/ha)	2.84	2.89	2.86 (1.94)	-	▲ 1.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 April 2019)

IGC 「Grain Market Report (25 April 2019)」 (単収は精米t/ha)

< 中国 >

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

## 米—中国

(単位:百万精米トン)

【生育・生産動向】2019年産二期作早稲の生育は4月上旬現在、南部の産地で播種期～移植期に入り、天候に恵まれ、良好に生育している。作付面積は依然として前年を下回る傾向が続くとみられている。

【政策情報・その他】国家発展改革委員会は2月26日、2019年産米の最低買付価格に関して、早期インディカ米(3等)、中晩期インディカ米(同)、ジャポニカ米(同)について、それぞれ昨年と同じ2,400元/トン、2,520元/トン、2,600元/トンとすることを公表した。

【貿易情報・その他】2019年2月の輸入量は13.1万トンで前年同月比2%減。主要輸入先は、パキスタン(38%)、タイ(34%)、カンボジア(13%)。一方、輸出量は14.6万トンで、前年同月比54%増。主要輸出先は、エジプト(41%)、コートジボワール(23%)、パプアニューギニア(9%)。

農業農村部の4月公表の「農産品供需形勢分析月報」(3月分)によれば、早期インディカ、晩期インディカ、ジャポニカ米の卸売価格(精米)は、春節前の価格の小ピークを過ぎたことから、それぞれ3,740元/トン、4,100元/トン、4,180元/トンと前月と比べ、ほぼ横ばいで推移。

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	147.8	148.9	148.5 (148.5)	-	▲ 0.3
消費量	141.8	142.5	143.8 (144.9)	-	0.9
輸出量	0.8	1.4	2.2 (2.4)	-	58.3
輸入量	5.3	5.5	4.5 (4.3)	-	▲ 18.2
期末在庫量	98.5	109.0	116.0 (98.5)	-	6.4
期末在庫率	69.1%	75.8%	79.5% (66.9%)	-	3.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.75	30.75	30.19 (30.19)	-	▲ 1.8
単収(もみt/ha)	6.87	6.92	7.03 (4.92)	-	1.6

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(9 April 2019)

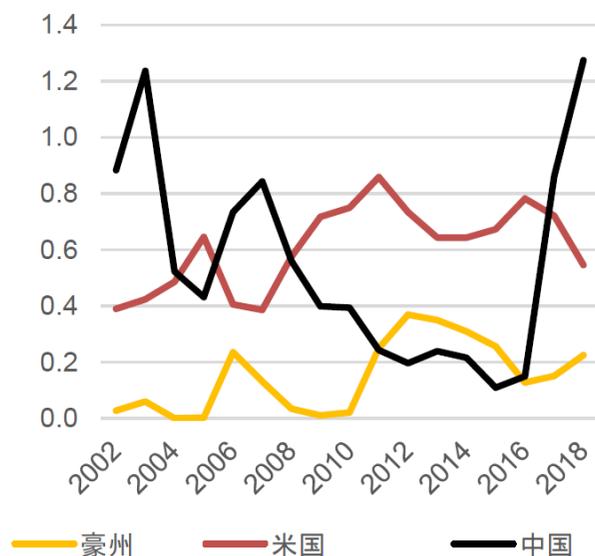
IGC 「Grain Market Report (25 April 2019)」 (単収は精米t/ha)

### (参考) 中国の中粒種米（ジャポニカ）の輸出、史上最高

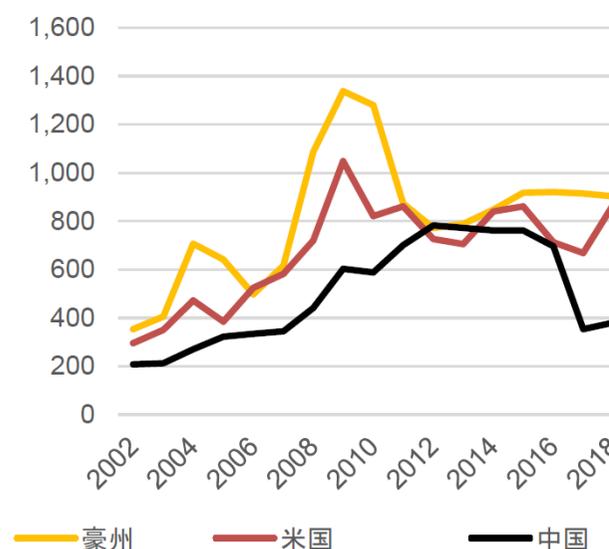
USDA の「Grain: World Markets and Trade」(2019年4月)の特集によると、

- ・世界の米輸出の中で、中粒種輸出のシェアはごく一部。最近は、米国、豪州が主に輸出を担ってきたが、中国の2018年の中粒種米の輸出が2003年を抜いて史上最高となった。輸出量は、ここ数年の傾向から8倍の伸び。
- ・輸出先は近隣の東アジア諸国からエジプト、トルコ、コートジボワール等へと輸出先が広がっている。
- ・輸出価格が豪州や米国の中粒種の約半額の価格となっているため、価格を重視する輸入国にとって魅力的な選択肢となっている。
- ・2013年以降の国家備蓄米が大量に競売に掛けられていることから、輸出米の一部には何年か前に生産された古米(古古米)が含まれているとみられる。
- ・2019年も引き続き中国の輸出価格の低下が米国、豪州の中粒種米輸出に大きな影響を与えるとみられる。

百万トン 中粒種精米の輸出量の推移



米ドル/トン 中粒種精米の輸出価格の推移



資料：USDA「Grain: World Markets and Trade」(2019年4月)をもとに農林水産省にて作成。

## II 油糧種子

### 1 大豆

(1) 国際的な需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2018/19 年度

**生産量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・前月に比べ、ブラジルの単収が上方修正されたため、上方修正された。

**消費量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・前月に比べ、アルゼンチン、米国、日本の消費量の上方修正により、上方修正された。

**輸出量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

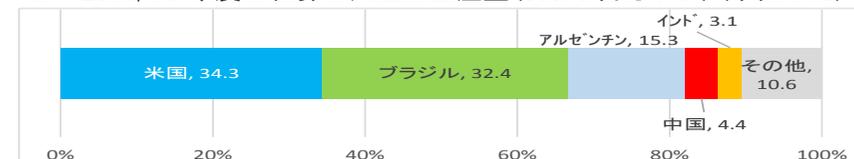
**期末在庫量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

(単位:百万トン)

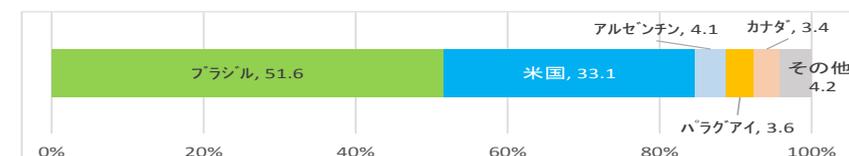
年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	349.3	341.7	360.6	0.5	5.5
消費量	330.8	338.6	349.1	0.6	3.1
うち搾油用	287.3	295.2	303.8	▲ 0.1	2.9
輸出量	147.5	153.0	154.3	0.1	0.9
輸入量	144.2	153.3	151.2	0.0	▲ 1.4
期末在庫量	95.7	99.1	107.4	0.2	8.4
期末在庫率	28.9%	29.3%	30.8%	▲ 0.0	1.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (9 April 2019)

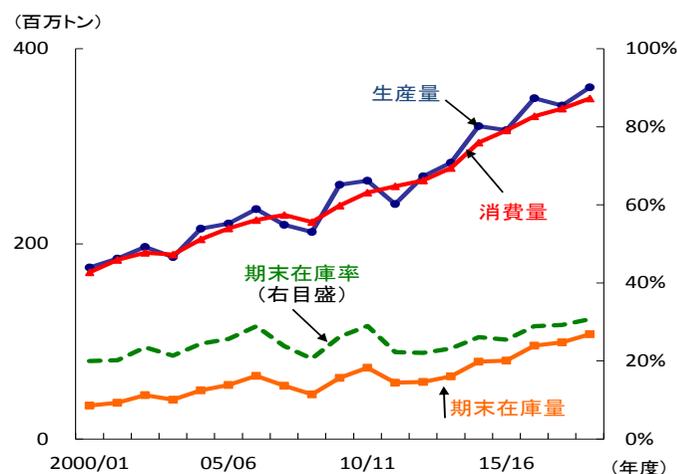
○ 2018/19 年度の世界の大豆の生産量 (360.6 百万トン) (単位：%)



○ 2018/19 年度の世界の大豆の輸出量 (154.3 百万トン)



○ 2018/19 年度の世界の大豆の輸入量 (151.2 百万トン)



資料：USDA 「PS&D」 (2019. 4. 9) をもとに農林水産省で作成。

(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によると、生産量は前月と同じく 123.7 百万トンの見通し。4月29日付けの「Crop Progress」によると、主要18州における作付け進捗率は3%（前年は5%、過去5年平均は6%）である。グレートプレーンズでは、冬小麦から、とうもろこし、大豆、その他の穀物等に作付け転換するとみられる。中西部では、3月に発生した洪水の影響により、一部の地域で土壌水分の過多や、作付けの遅れが生じ、とうもろこしから大豆に転換する可能性もある。

【需要動向】搾油量は、搾油マージンが良好な状態が続いていることから、前年度より2.2%増加の57.2百万トンの見込みである。

【貿易情報・その他】輸出量は前月と同じ51.0百万トンの見込みである。4月4日までの2019年累計輸出検証高を見ると、合計11.4百万トンであり、うち、中国が最も多く4.3百万トンである。

大豆－米国

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	116.9	120.1	123.7	-	3.0
消費量	55.7	59.0	60.7	0.05	2.8
うち搾油用	51.7	55.9	57.2	-	2.2
輸出量	59.0	58.0	51.0	-	▲ 11.9
輸入量	0.6	0.6	0.5	▲ 0.1	▲ 22.0
期末在庫量	8.2	11.9	24.4	▲ 0.1	104.4
期末在庫率	7.2%	10.2%	21.8%	▲ 0.1	11.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	33.47	36.24	35.66	-	▲ 1.6
単収(t/ha)	3.49	3.31	3.47	-	4.8

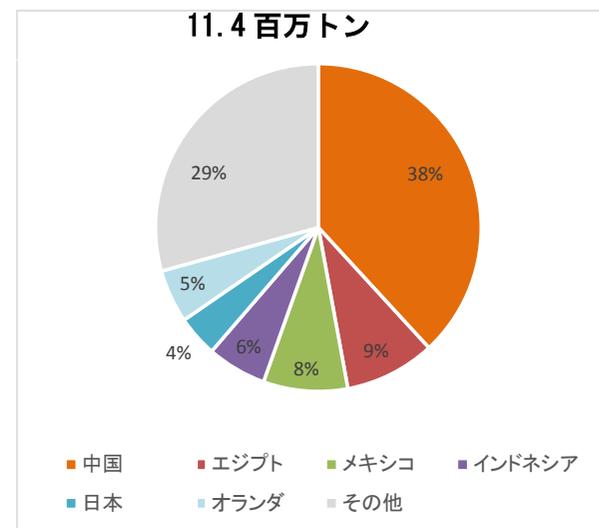
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 April 2019)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

2019年累計輸出検証高（1月3日～4月4日）



資料：USDA 輸出検証高

< ブラジル >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によると、生産量は、単収向上により、先月より上方修正され、117百万トンの見通し。同様に、ブラジル国家食料供給公社(Conab)も、2018/19年度の生産見通しを前月の113.5百万トンから113.8百万トンへと上方修正した。リオグランデ・ド・スル州は、天候に恵まれ、前年度より生産量が向上する見通し。収穫は終了している。

【貿易情報・その他】2019年3月の輸出量(9.1百万トン)の79%が中国向け(6.3百万トン)であった。その他、スペイン、イラン等にも輸出されている。特に、米国ドルに対するレアル安により、中国向けをはじめとする輸出が好調である。

大豆－ブラジル

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	114.6	122.0	117.0 (116.0)	0.5	▲ 4.1	
消 費 量	43.1	46.5	45.1 (・・・)	-	▲ 3.1	
うち搾油用	40.4	44.5	42.7 (43.7)	-	▲ 4.1	
輸 出 量	63.1	76.2	79.5 (76.4)	-	4.4	
輸 入 量	0.3	0.2	0.3 (0.4)	-	38.9	
期末在庫量	33.2	32.7	25.4 (1.6)	1.7	▲ 22.3	
期末在庫率	31.3%	26.7%	20.4% (・・・)	1.4	▲ 6.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	33.90	35.15	36.10 (35.78)	-	2.7	
単収(t/ha)	3.38	3.44	3.23 (3.24)	▲ 0.01	▲ 6.1	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Oilseeds: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」(9 April 2019)  
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(26 April 2019)

ブラジルのクロープカレンダー (2018/19年度) (中部から南部)

2018年は、例年より早い9月に作付けを行い、2019年2月には収穫が終了した。

ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

2018/19年度	2018年												2019年								
	1月	...	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
夏とうもろこし	リオグランデスル州等			作付 5.02(百万ha)					収穫 25.9(百万t)				収穫夏冬計 94.0								
冬とうもろこし	作付面積夏冬計 17.26												作付 12.24			収穫 68.1					
大豆	マトグロソ州、パラナ州等			作付 35.78					収穫 113.8				早熟種大豆収穫後冬とうもろこし播種								

資料: CONAB 2019年4月

< カナダ >

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省（AAFC）によると、2018/19年度の生産量見通しは前月と同じく7.3百万トンである。2019/20年度については、平原3州において、乾燥により、生育に必要な水分が不足していることから、2.5百万ヘクタール（2018/19年度2.6百万ヘクタール）と作付面積が減少する見込み。このため生産量も7.0百万トン（2018/19年度は7.3百万トン）と減少する見込みである。

【貿易情報・その他】輸出量については、AAFCによると、前月から改訂はない。2018/19年度は米国ドルに対するカナダドル安に支えられ、5.5百万トンの見込みである。2019/20年度は、生産量の減少見込みや、大豆輸出国間の競争激化により、5.0百万に減少する見込みである。

大豆－カナダ

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.6	7.7	7.3 (7.3)	-	▲ 5.4
消費量	2.5	2.9	2.7 (2.4)	-	▲ 7.8
うち搾油用	1.9	1.9	2.0 (...)	-	3.3
輸 出 量	4.6	4.9	5.4 (5.5)	0.1	9.6
輸 入 量	0.5	0.5	0.8 (0.7)	0.1	64.3
期末在庫量	0.3	0.6	0.6 (0.6)	-	0.8
期末在庫率	3.9%	8.1%	7.9% (7.0%)	▲ 0.1	▲ 0.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.23	2.94	2.55 (2.54)	-	▲ 13.3
単収(t/ha)	2.96	2.63	2.86 (2.86)	-	8.7

資料：USDA「Oilseeds: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」(9 April 2019)  
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(16 April 2019)

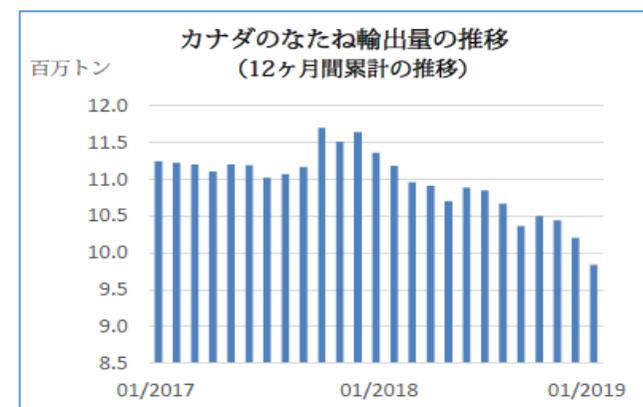
(参考 カナダのなたね)

米国農務省（USDA）「Oilseeds: World Markets and Trade」によると、カナダのなたね輸出量の過去12ヶ月間累計の推移は、2017年後半にピークを迎え、その後、減少傾向にある。最大の輸入国であった中国向けが減少しているのが理由。

AAFCによると、世界的な油糧種子の供給が潤沢で、中国がカナダのなたね輸入検疫を強化していることから、2019/20年度については、作付面積が減少する見込みである。一方、輸出については、中国以外の輸入国からの需要が見込まれることから、一転して回復する見込みである。

	作付面積	生産量	消費量	輸出量	期末在庫
2018/19年度	9.2百万ha	20.3百万トン	9.6百万トン	9.8百万トン	3.5百万トン
2019/20年度	9.0百万ha	19.8百万トン	9.6百万トン	10.5百万トン	3.3百万トン

資料：AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(16 April 2019)



資料：USDA「Oilseeds: World Markets and Trade」(2019年4月)

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】ブエノスアイレス穀物取引所によると、2019/20年度の単収は、前年の2.4トン/ヘクタールを大きく上回る3.8トン/ヘクタールとなり、生産量は、天候に恵まれ、4月24日付け週報によると、55.0百万トンの見込みである。収穫進捗率は50.7%である。

【貿易情報・その他】アルゼンチン国内で搾油した後、大豆油は、インド、ペルー、エジプト等に、大豆粕は、ベトナム、インドネシア等に輸出されている。ブエノスアイレス穀物取引所によると、同先物市場における大豆の価格が低価格で推移していることから、生産者は大豆を売り控えているという。

< 中国 >

【生産・生育状況】4月10日付けの中国糧油情報センターによれば、2018/19年度の実生産量は、16.0百万トンである。例年4月下旬より作付けが開始されている。中国政府は、大豆生産量を増加させる目的で、大豆への作付け奨励を行っていることから、大豆の作付面積は拡大する見通し。

【需給動向】昨年11月以降、東北産地の新穀大豆が市場に流通し始め、供給量が増加し、その傾向が続いている。さらに黒竜江省はじめ東北産地の気温が上昇し、農家における大豆保管が難しくなってきたことから、販売意欲が増している。中国農業農村部によると、国内価格は低調なまま推移している。

【貿易情報・その他】中国の貿易統計では、3月の輸入量は、4.9百万トンと前年同月と比べ、0.5百万トン増加した。うち、米国産は1.5百万トン、ブラジル産は2.8百万トンとなっており、米国産は、2月(0.9百万トン)より増加している。

大豆－アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	55.0	37.8	55.0 (55.5)	-	45.5
消費量	49.8	43.6	49.9 (…)	0.7	14.4
うち搾油用	43.3	36.9	43.0 (41.4)	-	16.4
輸 出 量	7.0	2.1	6.3 (8.5)	-	198.6
輸 入 量	1.7	5.1	5.4 (3.0)	-	5.9
期末在庫量	27.0	24.1	28.3 (9.5)	▲ 1.5	17.2
期末在庫率	47.5%	52.7%	50.3% (…)	▲ 0.03	▲ 2.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	17.34	16.30	17.50 (17.10)	-	7.4
単収(t/ha)	3.17	2.32	3.14 (3.25)	-	35.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」  
「World Agricultural Production」(9 April 2019)  
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(26 April 2019)

大豆－中国

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	13.6	15.2	15.9 (14.4)	-	4.6
消費量	103.5	106.3	105.1 (…)	-	▲ 1.1
うち搾油用	88.0	90.0	88.0 (83.0)	-	▲ 2.2
輸 出 量	0.11	0.13	0.13 (…)	0.03	-
輸 入 量	93.5	94.1	88.0 (84.7)	-	▲ 6.5
期末在庫量	20.7	23.5	22.2 (…)	▲ 0.02	▲ 5.6
期末在庫率	19.9%	22.1%	21.1% (…)	▲ 0.03	▲ 1.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.60	8.25	8.40 (7.20)	-	1.8
単収(t/ha)	1.80	1.84	1.81 (2.00)	-	▲ 1.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 April 2019)  
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(26 April 2019)

(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2018/19年度)

	小麦	とうもろこし	米	大豆	なたね
米国	18年6月～19年5月	18年9月～19年8月	18年8月～19年7月	18年9月～19年8月	
カナダ	18年8月～19年7月			18年8月～19年7月	18年8月～19年7月
豪州	18年10月～19年9月		19年3月～20年2月		
EU	18年7月～19年6月				
中国	18年7月～19年6月	18年10月～19年9月	18年7月～19年6月	18年10月～19年9月	
ロシア	18年7月～19年6月				
ブラジル		19年3月～20年2月		18年10月～19年9月	
アルゼンチン		19年3月～20年2月		18年10月～19年9月	
タイ			19年1月～12月		
インド	18年4月～19年3月	18年11月～19年10月	18年10月～19年9月		
ベトナム	18年7月～19年6月		19年1月～12月		

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2018/19年度は、米国の小麦では2018年6月～2019年5月、ブラジルのとうもろこしでは2019年3月～2020年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads?tabName=default>

## 【利用上の注意】

海外食料需給レポートは、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポートで使用している統計数値は、主に米国農務省が2019年4月下旬までに発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

[http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY\\_REPORTS](http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS)

### 主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。**
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。  
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>

(注：同サイトの「Reference Data」を参照)

- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート」）を併記願います。
- 本文中の略称については以下の通りです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社
JAXA	宇宙航空研究開発機構
ASF	アフリカ豚コレラ

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

- 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

[http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j\\_rep/index.html](http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html)

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

<p><b>連絡先</b>      <b>農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室</b> <b>TEL：03-3502-8111 (内線 3805)</b></p>
-----------------------------------------------------------------------------------------